

おわりに

公益財団法人「アーバンハウジング」から当社が委託を受けている調査・研究は、都市における住生活の今後の方向及び都市型住宅・コミュニティの将来像に関するテーマを主軸に、近年、「生活者が求める団地生活再生に関する調査研究（千里NT編）」、「都心居住（大阪圏）」に関する研究、「京都の都心居住と京町屋に関する研究」、「大阪長屋の保全活用とネットワーク形成に関する研究」「地域包括ケアシステムに向けたコミュニティとライフスタイルの形成に関する研究」の内容で実施してきました。

昨年の「地域包括ケアシステムに向けたコミュニティとライフスタイルの形成」の研究をしている中で、特に地域との関わりが重要だと感じると共に、昭和30年代に新たな住宅群を形成したニュータウンに住まう人々が、変わりゆく時代の変化の中で、いかに生活対応をしているのかが興味を引くこととなりました。今一度ニュータウンの成り立ちから現在までの経緯と60年を経た問題点、その課題を解決すべくその街の再生への取組がどのように行われているのか調査する必要があると感じるようになりました。

私が住んでいるのも兵庫県にある大規模ニュータウンで、すでに高齢化、少子化の問題を抱えるようになってきています。このことは、団地を含むニュータウンだけの課題ではなく、ニュータウン周辺地区も含めたまち全体の課題だと言えます。ニュータウンのまちづくりから60年、まちも生き物です。そのまちには住宅だけでなく、働く場所、アメニティ空間、高齢者が集う場所、若者が集う場所、地域活動を行う人達が集う場所など、様々な場所や施設が必要です。また、計画的に作られたまちなので、製造者責任もあると感じます。これら課題を解決すべく、月日を重ねたオールド・ニュータウンの再生検討を行うことを事務局より提起しました。

今回、上記「ニュータウン再生」について造詣が深い、武庫川女子大学 三好庸隆教授に研究主査をお願いし、武庫川女子大学 水野優子准教授、伊丹康二准教授、大阪大学大学院 松原茂樹准教授を委員とする「オールド・ニュータウンの再生への取組状況と今後のあり方に関する研究」という研究会を立ち上げました。

今年度は公的開発型のニュータウン、来年度は民間開発型のニュータウンに焦点をあて、様々な再生の取組を行っている人々や団体の活動を調査しています。今年度の主な対象は、兵庫県の明舞団地で、少子化、高齢化、日本語を解さない居住者等、様々な課題を抱える中、生き生きとした取組を行い、街の活性化に寄与している方々や団体にスポットをあてています。公的機関が主導する再生の取組は、様々な活動を誘発・発展させており、ニュータウン以外の民間事業者や団体の方々が、ニュータウンに入り込み、コミュニティビジネスへの発展性へも繋げているといえます。また、来年度は民間開発型のニュータウンの再生の取組を調査し、初年度の公的開発型ニュータウンの内容も含めた2年間のまとめとなり、多角的な議論が期待されます。

この研究で今年度事例収集したニュータウン再生の取組が、今後のまちづくり計画やコミュニティ形成の一助になれば幸いです。

最後に、本研究にご理解を下された公益社団法人アーバンハウジングの皆様、調査にご協力頂いた行政、民間、住民団体の皆様、本研究会委員の皆様に深く、感謝申し上げます。

(事務局) 株式会社URリンケージ西日本支社 都市再生本部計画部 三安康徳

【執筆者略歴】

三好庸隆（みよし・つねたか）

専門：建築計画・都市計画。特にニュータウンや住宅地の計画・設計実績多数。
大阪大学工学部建築工学科、同大学院修了。専門事務所を経て、1988年PPI計画・設計研究所設立。
2007年より武庫川女子大学生生活環境学科教授、現在同学部長・研究科長。ニュータウンや郊外再生に関する近年の実績は、明舞団地再生アイデアコンペ最優秀賞（2006年度）、2013年団地再編COMPETITIONで河内長野市長賞。能勢電鉄沿線活性化をテーマとした地域芸術祭〈のせでんアートライン〉提唱、第4回の2019年度は実行委員長。著書に「〈まちづくり〉への新発想—その可能性と18の視点」（建築資料研究社）、「都心・まちなか・郊外—京阪神大都市圏の将来」（共著。晃洋書房）など。博士（工学）。一級建築士。

水野優子（みずの・ゆうこ）

専門：都市計画、まちづくり。主な研究テーマは、ニュータウンにおけるエリアマネジメント。
武庫川女子大学大学院生活環境学専攻修了。2007年より武庫川女子大学生生活環境学科助手、現在同学科准教授。ニュータウンや郊外住宅地に関する研究は、博士論文「ニュータウンにおける管理運営主体としての地域コミュニティのあり方に関する研究」をはじめ、ニュータウンや団地、郊外住宅地におけるまちづくりや維持・管理・運営の主体に関する研究を進める。2014年から2016年にかけて兵庫県郊外型住宅団地再生検討委員会にて副会長を務め、高経年の郊外型住宅団地の再生手法等を検討し、「兵庫県ニュータウン再生ガイドライン」を策定。著書に「都心・まちなか・郊外—京阪神大都市圏の将来」（共著。晃洋書房）など。博士（生活環境学）。

伊丹康二（いたみ・こうじ）

専門：建築計画。研究テーマはニュータウンの住環境整備、公共施設の再編など。
大阪大学工学部建築工学科、同大学院修了。豊中市政研究所（現・とよなか都市創造研究所）研究員、大阪大学大学院助教を経て、2019年より現職。
ニュータウンや郊外住宅地に関する研究は、博士論文「ニュータウンにおける街角施設の発生実態からみた街角施設の導入手法に関する研究」をはじめ、ニュータウン内の地域施設の建築計画・運営・利用に関する研究を進める。
「観光路線と郊外路線の二面性を持つ林間田園都市駅に対する一提案」で2018年都市住宅学会論説賞。著書に「公共施設の再編～計画と実践の手引き」（共著、森北出版、2015）。博士（工学）。

松原茂樹（まつばら・しげき）

専門：建築計画，環境行動研究。研究テーマは高齢者・障害者の社会福祉施設計画。
大阪大学工学部建築工学科、同大学院修了。2006年より大阪大学大学院助教、2014年より現職。
ニュータウンや郊外住宅地に関する研究・実践として、「千里ニュータウンの価値と魅力を共有するための活動～「千里グッツの会」による地域情報共有メディアの制作等による住まわれた歴史の継承」（「千里グッツの会」メンバー）に取り組み、2014年都市住宅学会賞・業績賞を受賞。
著書に「まちの居場所—ささえる/まもる/そだてる/つなぐ」（共著、鹿島出版会、2019）、「福祉転用による建築・地域のリノベーション：成功事例で読みとく企画・設計・運営」（共著、学芸出版社、2018）。博士（工学）。

川上 薫（かわかみ・かおる）

職歴分野：まちづくり、市町村総合計画、産業振興計画、公的賃貸住宅の再生に係る調査計画。
大阪外国語大学インド・パキスタン語学科卒業。1982年（財）関西情報センター入所。1989年エクメネ研究所設立。2019年㈱URサポート（現㈱URリンケージ西日本支社）入社。現在同社都市再生本部調査部在籍。ニュータウンや郊外再生に関する近年の実績は、「生活者が求める“団地再生”に関する調査・研究（千里ニュータウン編）」、「団地の資産価値向上に係る具体化手法の研究」、「市営住宅の団地再生に向けた建替余剰地等の活用方策検討調査」、「住戸リノベーション等における住まい方調査業務」等。経済地理学会会員。

オールド・ニュータウンの再生と今後のあり方研究会

【委員】

主査	三好 庸隆	武庫川女子大学	教授
	水野 優子	武庫川女子大学	准教授
	伊丹 康二	武庫川女子大学	准教授
	松原 茂樹	大阪大学大学院	准教授 / 武庫川女子大学 准教授

(2019年度大阪大学と武庫川女子大学とのクロスポイント制度にもとづく)

【事務局】

田中 啓介	㈱URリンケージ西日本支社	都市再生本部	特別参与
三安 康德	㈱URリンケージ西日本支社	都市再生本部計画部	部長
濱津 稔	㈱URリンケージ西日本支社	都市再生本部計画部計画第一課	
川上 薫	㈱URリンケージ西日本支社	都市再生本部計画部計画第二課	

初版 令和2年3月

公益財団法人 アーバンハウジング

〒101-0052 東京都千代田区小川町 1-11-9 金子ビル 6F

TEL/FAX:03-3292-5252

E-mail : urb@jh-a.or.jp

<http://www.urban-housing.or.jp/>